

(第三種郵便物承認)

30年
日航機墜落

日航機墜落事故から30年を迎えたことを機に、曹洞宗群馬県宗務所寺

命の尊さ語り部に

元県警・飯塚さん身元確認回想



日航機墜落事故について「語り部として伝えたい」と話す飯塚さん

族会（明峰敦子会長）は26日、高崎市吉井町の仁叟寺（渡辺啓司住職）で、慰霊法要と講演会を行った。元警察官で身元確認班長として事故に関わった作家の飯塚さん（78）＝前橋市富士見町小暮＝が、悲惨な事故から学んだ命の尊さや語り継いでいく決意を語り、約60人が聴き入った。高崎署の刑事官だった飯塚さんは、遺体安置所となり「第2の現場」と呼ばれた藤岡市民体育館で、医師らと共に検視をした。遺族の泣き叫ぶ声が響く中、室温40度の暑さと遺体の臭いと戦いながら、127日間にわたって身元確認作業を続けた日々を語り続けた。

「絶望のどん底、極限状態にいる遺族に励ましの言葉は通用しない。ただ側にいて、その一部を共有するだけ」と当時の心境を語り、警察官、ボランティア、看護師ら、一言一語を祈った。

慰霊法要では、520人の位牌を前に参加者全員で焼香し、冥福を祈った。

田面が1点、22日、

命の尊さ語り部に
元県警・飯塚さん身元確認回想 高崎

30年日航機墜落

日航機墜落事故から30年を迎えたことを機に、曹洞宗群馬県宗務所寺族会（秋峰敦子会長）は26日、高崎市吉井町の仁叟寺（渡辺啓司住職）で、慰霊法要と講演会を行った。元警察官で身元確認班長として事故に関わった作家の飯塚さん（78）＝前橋市富士見町小暮＝が、悲惨な事故から学んだ命の尊さや語り継いでいく決意を語り、約60人が聴き入った。

高崎署の刑事官だった飯塚さんは、遺体安置所となり“第2の現場”と呼ばれた藤岡市

民体育館で、医師らと共に検視をした。遺族の泣き叫ぶ声が響く中、室温40度の暑さと遺体の臭いと戦いながら、127日間にわたって身元確認作業を続けた記憶をたどった。

「絶望のどん底、極限状態にいる遺族に励ましの言葉は通用しない。ただ側において、その一部を共有するだけ」と当時の心境を語り、警察官、ボランティア、看護師ら、一言の苦情も言わず遺族に寄り添った人々を紹介。「操作報告書には残らない、心のケアがあった」と話した。

毎日夜中に帰宅して家族に会うと、当たり前の幸せを実感し「地獄と極楽の往復だった」と振り返った。

「30年たった今でも遺族は家族に会いたい。それが愛。絆が弱くなったと言われる今こそ、命の大切さと重さを、語り部として伝えていく」と決意を示した。

慰霊法要では、520人の位牌を前に参加者全員で焼香し、冥福を祈った。